学校番号	１００６

令和２年度　音楽科

教科	音楽	科目	演奏研究	単位数	2,4 単位	年次	2,3 年次
使用教科書	個々のレベルに応じた教材を使用						
副教材等	なし						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

■進路にピアノが必要な生徒（保育や教育方面など）を主に対象としていますが、その他の生徒も選択できます。
■ピアノを演奏するための楽譜の読み方、指使い、音楽用語などを学習し、課題曲や自由曲を演奏します。
■学習の到達度は年間５回の実技テストや提出物で評価します。
■ピアノの演奏はこつこつと練習を積み重ね、少しずつ上達します。学習の際は、じっくりと時間をかけて課題に取り組んでください。

2　学習の到達目標

様々なピアノの演奏を通して、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現の能力を伸ばし、音楽文化についての理解を深める。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:音楽への関心・意欲・態度	b:音楽表現の創意工夫	c:音楽表現の技能	d:鑑賞の能力
観点の趣旨	楽器の音色や奏法の特徴や様々な表現形態による演奏の特徴などに興味をもち、ピアノ演奏の学習に主体的に取り組もうとしている。	音楽を形づくっている要素（音色、リズム、速度、旋律、強弱など）を知覚し、それらの働きを感受しながら、演奏の表現を工夫し、どのように演奏するかについて表現意図をもっている。	創意工夫を生かした音楽表現をするために必要なピアノ演奏の技能（奏法、姿勢や指の使い方、読譜の仕方など）を身につけ、創造的に表している。	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、演奏を解釈し、音楽に対する理解を深めてよさや美しさを創造的に味わって聴いている。
評価方法	観察 ワークシート	観察 ワークシート 実技テスト	観察 実技テスト	ワークシート

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	題材名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1学期	基礎を身に付けよう	バイエルなどの教則本から課題曲数曲	○	○	○		a:ピアノの音色や奏法の特徴に興味をもち、ピアノを演奏する学習に主体的に取り組んでいる。 b:音楽を形づくっている要素（音色、リズム、速度、旋律、強弱など）を知覚し、それらの働きを感受しながら、演奏の表現を工夫している。 c:音楽表現をするために必要なピアノ演奏の技能（奏法、姿勢や指の使い方、読譜の仕方など）を身につけ、創造的に表している。	観察 ワークシート 実技テスト
2学期	曲を選んで演奏してみよう	初心者用楽譜等から課題曲 簡単な連弾曲	○	○	○		a:ピアノの音色や奏法及びアンサンブル（連弾）の特徴に興味をもち、ピアノを演奏する学習に主体的に取り組んでいる。 b:音楽を形づくっている要素（音色、リズム、速度、旋律、強弱など）を知覚し、それらの働きを感受しながら、アンサンブル（連弾）の特徴を生かした演奏の表現を工夫し、どのように演奏するかについて表現意図をもっている。 c:音楽表現をするため、及びアンサンブル（連弾）をするために必要なピアノ演奏の技能（奏法、姿勢や指の使い方、読譜の仕方など）を身につけ、創造的に表している。	観察 ワークシート 実技テスト
3学期	1年間の仕上げをしよう	自由曲	○	○	○	○	a:ピアノの音色や奏法の特徴に興味をもち、ピアノを演奏する学習に主体的に取り組んでいる。 b:音楽を形づくっている要素（音色、リズム、速度、旋律、強弱など）を知覚し、それらの働きを感受しながら、演奏の表現を工夫し、どのように演奏するかについて表現意図をもっている。 c:音楽表現をするために必要なピアノ演奏の技能（奏法、姿勢や指の使い方、読譜の仕方など）を身につけ、創造的に表している。 d:音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、演奏を解釈し、音楽に対する理解を深めてよさや美しさを、創造的に味わって聴いている。	観察 ワークシート 実技テスト

※　表中の観点について　a:音楽への関心・意欲・態度　b:音楽表現の創意工夫
c:音楽表現の技能　d:鑑賞の能力

※　年間指導計画（例）作成上の留意点
・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。